No.14
令和８年
秋・冬

職人の技を受け継ぎ歴史・文化を継承する

職大だより

公益社団法人 金沢職人大学校

巻頭言

＜修了証書授与式及び入学式を挙行しました＞

3 年間の研修の締めくくりとなる第 10 回修了証書授与式、並びに新たな 3 年間の研修の出発点となる第 11 回入学式を執り行いました。とりわけ、今年は 30 周年の佳節として、これまでの来し方を振り返り、これからの進むべき道を指し示していく機会であると捉えています。

令和 8 年 9 月 26 日に本科 10 期生 38 名、修復専攻科 9 期生 43 名の修了証書授与式を職人大学校第一実習棟において執り行いました。式典では、修了証書授与に続いて学校長坂本の式辞、村山卓市長ならびに坂本泰広市議会議長の祝辞のあと、修了生を代表して、本科大工科の今村舜さんが答辞を述べました。

また、長年の指導に尽力してこられた本科石工科の出口秀樹氏、清水和彦氏、同じく瓦科の天池満氏、左官科の平野甚九郎氏、造園科の髙野秀幸氏、建具科の中居克彦氏、平井靖洋氏、板金科の久野誠氏ら各科講師に、市長から感謝状が贈呈されました。

続いて、10 月 3 日、本科 11 期生 43 名、修復専攻科 10 期生 43 名の入学式を執り行いました。式典では金沢職人大学校校長坂本から式辞、村山卓市長ならびに坂本泰広市議会議長の祝辞のあと、本科造園科に入学する岩本慶二さんから新入生代表の宣誓が力強く行われました。

あわせて、宮内庁正倉院事務所前所長の西川明彦氏から「正倉院のしごと」の演題で記念講演を行っていただき、文化財を後生へ継承していく重要性を伝えていただきました。

開校以来 30 年の歳月を経て、関係各位のご尽力により、修了生総数は本科 458 名、修復専攻科 363 名、あわせて 821 名となりました。今後は、この修了生が修得した技術を活かす場づくりを支援する仕組みが必須の課題であります。また、歴史的建造物の価値付けや適切な修復方法を提案したり、職人不足の自治体の支援など、様々な方策を講じていくことが急務です。

新たな節目を迎え、私たちは今、多くの課題に挑戦する重要な局面に立っております。関係の皆さまのご支援を賜りながら、職員一同、心を一つにして歩みを進めてまいります。（坂本英之）



第 10 回修了証書授与式の様子
（本科 38 名、修復専攻科 43 名修了生が巣立つ）

大工科　数寄屋建築　模型製作

面皮柱・丸太ひかりつけの様子

～職人によって受け継がれてきた伝統技術を習得する～

本科10期生の3年間の研修も残りわずかとなり、大工科では数寄屋建築の技術のうち、『ひかりつけ』を模型製作を通して研修しました。

『ひかりつけ』とは、木と木、または木と異なる素材（自然石）をぴったり合わせる加工技術です。ノミやクチヒキなどの道具を使い手作業で微調整を重ねながら仕上げていきます。一つの接合部を仕上げるのに何度も写し取りと削りの作業を繰り返す必要があり、時間と手間がかかります。



▲ノミを使用し垂木（丸太）の形状に合わせながら桁（丸太）を繰り返し削っていく



▲垂木接合部
上：垂木設置前
下：垂木設置後



▲面皮柱と桁（丸太）の拡大接合部：形状に合わせてぴったりとひかりつけされている

研修生に当校で特に勉強になった技術やもう一度学びたい技術を質問すると、数寄屋建築のひかりつけがやはり特に難しく、もう一度学びたいと感じている研修生が多くいました。取材時点であと数か月の研修期間ですが、同期の研修生と切磋琢磨し、講師の助言を目一杯吸収・消化して身に付けていって欲しいものです。大工科研修生のうちほとんどが修復専攻科進学希望です。3年後、成長し進化を遂げる姿が楽しみです。



▲クチヒキ（口引き）：木材など曲面を他の材に引き移すための道具



▲ノミ：様々な大きさ・刃の形状がある。削る面に合わせて選ぶ



①クチヒキを使用し自然石の形状を柱に写し取る



②ノミを使用し自然石の形状に合わせながら根気よく繰り返し削っていく



③自然石と接する部分にチョークが沢山付いた柱の底部を削って密着度を確認する



④面皮柱（めんかわばしら）のひかりつけ加工完了。労力はかかるが接合面積が増えることでずれ防止や荷重の伝達が効果的になる

入門講座 匠部（たくみぶ）

職人とまなぶ、オトナの部活

「生きた職人の技と心」に直接触れ、理解を深める

一般社団法人石川県木造住宅協会とコラボレーション

若手が職人の技術を学ぶ

若手職人や建築事業者を対象とした入門講座を開催しています。今年度は左官・タイル・内装・大工（2回）・建具5科目の基礎的な座学と実技研修を行います。ベテラン職人の匠の技に触れながら、ものづくり体験をとおして各業種の基礎知識や技術への理解を深められる場です。職人の心意気や気遣いにも触れられる貴重な機会ですので、研修生の今後に生かせる有意義な時間となるよう学んでほしいと思います。

令和８年開講式　６月26日（金）



坂本学校長



村山市長



木造住宅協会 山田会長

職人の手仕事の面白さを知るきっかけに

職人に興味を持ってほしい

ものづくりの楽しさを学んでほしい

左官学



▲漆喰塗り



▲玉砂利洗い出し

タイル学



▲加工体験



▲小物製作

内装学



▲クロス張り



▲床材施工

大工学



▲座学・指金の使い方



▲屋根の構造模型製作

建具学



▲組子の図案製作



▲組子製作



▲瓦科「本瓦葺き」



▲石工科「石積み」



▲大工科「規矩術」「社寺建築」「数寄屋建築の丸太組」
「炉縁」「鬼」



▲畳科「手縫い床畳」

本科 10 期生　修了作品



▲左官科「和風壁と洋風壁」「炉檀」「マーブルテーブル」



▲建具科
造作組子「四方ころび」
欄間「菱井筒つなぎ」
雪見障子「象嵌入組手腰　紐だし額」



▲造園科「滝石組」



▲板金科　「鮫鰊水落口」「柱根巻」



◂修復前
▼修復後



▲表具科六曲一双「菊花図」の修復

修復専攻科9期の研修成果

修復専攻科9期では、3か年の研修で、当初の半年は文化財修復に関する様々な講義を受けた後、実習として3件の建物調査に取り組みました。1年次は「市指定保存建造物旧佐野家住宅2階座敷部分調査」、2年次は「佐奇神社拝殿調査」、3年次は「旧田上医院調査」を実施しました。建物の種別、規模、内容はそれぞれ異なりますが、基本に忠実に調査を進めました。

3年次に調査した旧田上医院は、昭和7年建築の建物で、間仕切りなどの改変もなく、玄関周りや廊下から見た部屋の連なるたたずまいや、待合室、薬局、診察室、手術室などの内部についても、内装類や調度に至るまで建築当初の状態がよく残されています。

9期では、全体の調査を実施した後、業種毎の調査グループを再構成し、それぞれの業種での考察を深め、価値を損なわない修復の方針を提案しました。

この調査の集大成として、報告書にとりまとめるとともに、来る11月28日には、建物所有者、外部の学術関係者などをお招きし、調査結果の報告会を開催します。



▲旧田上医院（尾張町）



▲庭園の調査風景



本科 10 期生「十輝会」姫路修了旅行

令和8年 9 月6日（日）～7日（月）

1日目　姫路城・好古園

2日目　播磨国総社 射楯兵主神社～灘菊酒造酒蔵見学



姫路城の見学では、姫路城平成の大修理の大棟梁をつとめられた西嶋工務店・西嶋棟梁にご案内いただくという、なんともぜいたくな研修となりました。

西嶋棟梁には、現場に関わられた方だから知る裏話に加えて、職人の心構えをご指南いただきました。宮大工の仕事は、自分個人の表現ではない。後に引き継ぐようにやっている。職人たちには、「給料をもらったら、少しでもいい道具を買いなさい。力量よりも少し上の道具を買うことで、道具が自分を引き上げてくれる」など、含蓄深いお話を伺いました。



▼西の大柱を継いだ楔と同じ楔





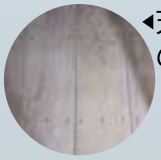
◆西の大柱のお話

天守閣東の大柱は丸柱だが、西の大柱は角柱。というのも、西の大柱の材料を山から搬送するとき、カーブを周る際に木が割れてしまった。そこで、角材にして楔で継いだ。このことで、むしろ丸太よりも強度があがり、負荷がかかるほど強く締まるようになった。



◆文化財修復のお話

床板に打ち付けられている大量の和釘を、板を傷つけずに抜いてほしいという文化庁からの指示にはずいぶん苦労した。裏から板をあてて、釘を浮かし、特殊な器具を使ってほとんどの釘を無事に抜くことができた。



◂天守閣床板の和釘

◆宮大工の物差しのお話

「財病離美宮却害吉」と書いてある。文字の意味によって長さを使い分ける。城の入口の門は、邪気を入れないように「離」の長さになっている。

城内の数百カ所を測ってみると、同じ意味だからといって一つの長さにそろえてしまうのではなく、全体のバランスをとって使い分けられているようだ。



令和8年 10 月 3 日（土）

第 11 回入学式　記念講演

「正倉院のしごと」

宮内庁正倉院事務所前所長　西川　明彦　氏

西川氏は 1988 年の宮内庁正倉院事務所保存課奉職以来 39 年間、正倉院にて宝物の保存・修理に携わっておられます。正倉院とは本来、複数の「正倉」のある一画を指しますが、現在は1棟の正倉のみが往時の姿で残っており、この正倉が「正倉院」と呼ばれるようになったこと、公開は年に2ヶ月間のみであるため、美術館や博物館のような公開を目的とする施設よりも格段に保存状態がよいことなど、貴重な資料を映しながら具体的に解説をいただきました。





▲森林太郎（鴎外）が帝室博物館総長時代に詠んだ短歌

【編集後記】

去る 9 月 26 日、本科10期及び修復専攻科9期の修了証書授与式を、10 月3日には、本科11期及び修復専攻科10期の入学式を挙行しました。

今年は開校30周年という節目にあたり、これまでの修了生は821名を数え、市県外からの研修生も増加しています。

修了生の方々にとって金沢職人大学校の研修で習得した知識や技術をこれからも発揮していただく場が常に必要であることが、以前から喫緊の課題としてあげられています。

これを受けて金沢市では、修了生の情報登録システム「金沢職人アーカイブ」の創設や金沢市の歴史的建造物等の修理費補助において修了生を活用した際の補助率加算など、修了生活躍の場の提供に努めています。

匠の技を学んだ多くの修了生が歴史的建造物等の修復に携わり、貴重な歴史文化資産が後世に受け継がれることを願っております。（Y.I）

【発行・連絡問い合わせ先】
公益社団法人　金沢職人大学校
住所：石川県金沢市大和町1番1号
＊金沢市民芸術村の一角にあります。
電話：076-265-8311　ファックス：076-225-8314
web サイト：https://www.k-syokudai.jp/
事務局：平日 9:00-17:00/土日・祝休み